



1369 四国中央市理科同好会「プラスチックの害」2/8

いまばり 村上校長先生が講師です。

「死んだクジラの胃袋に100kgのプラスチックのごみがありました。驚きました。」

「もっと前に、同じことがあったこと知っていたことを思い出しました。」

「それから何もなかった自分を反省して、今回伝えています。」

「自分の学校で伝えると若い先生が“目からウロコでした。”の強い反応でした。」

2018～2019年にはプラスチックの害がくり返し報道されました。海洋生物の悲惨な被害、プラスチックのストローを止める企業のニュースなど。

「今、目からウロコ!？」には驚きです。この問題を「知っている」「知らない」の差は、「関心がないから聞き流した」と「関心があるから危機感を感じた」の差かな? 危機感を世界中の人が共有できなければ、今の環境は変えられません。

首に網がはさまって、とれません。そのまま成長したら、首がしまて息できなくなります。



とれず、首のヒフが切れる。

画: ナショナルジオグラフィックの写真から

捨てられた漁網に首をつつこんだ子アザラシ。自力ではとることはできません。成長すれば首は太くなります。漁網は首に食い込んで、ヒフを切ります。さらに成長して太くなると、その奥の血管を切り出血して死にいたります。

ビニール袋を被ってしまった水鳥。羽を広げて飛べません。これではエサをとれません。

どちら、じわじわとゆっくり死に至る。なんと残酷なことでしょうか。

そこまで追い込んでいるのは人間。あなたも、その中の一人です。

今から、あなたができること。プラスチックをポイ捨てしない。買う数を減らすことです。

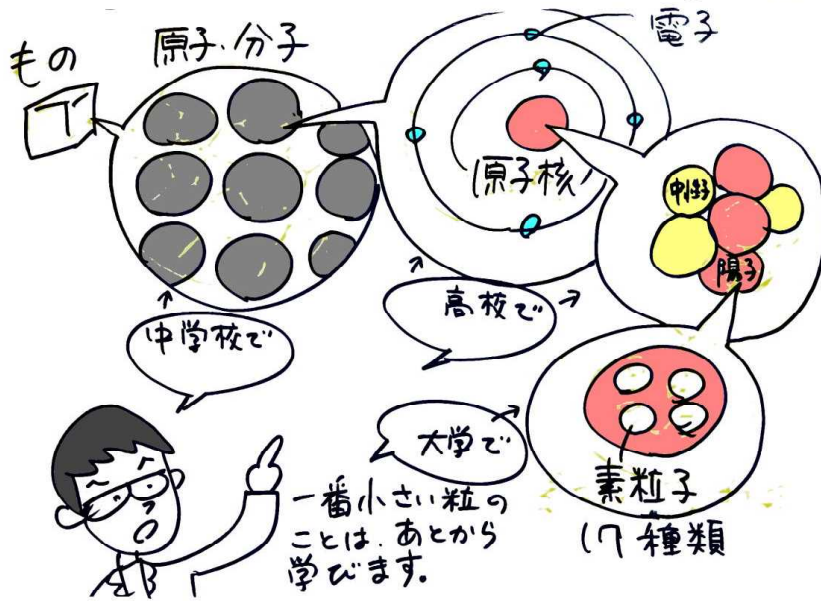




1370 新居浜市教育委員会主催の講演会 2/8

「史上最大の加速器で時間を巻き戻す～ヒッグス粒子の発見とダークマターの探索～」

新居浜市出身の田中純一教授の講演会。小中学生が全体の半分くらい。



素粒子の話です。

すべての物質は原子や分子と呼ばれる小さな粒からできています。と、中学校で学びます。原子や分子はさらに電子と原子核に分かれます。と高校で学びます。さらに原子核は陽子と中性子に分かれます。この粒はさらに小さな粒の組み合わせでできています。この粒を素粒子といい17種類が発見されています。

最後に発見されたのがヒッグス粒子です。発見者は翌年、ノーベル賞を受賞。

田中教授は発見したチームにいた人です。普通ノーベル賞は功績の何年も後に受賞ですが、翌年というスピード受賞は、それだけ偉大な発見なのです。

ヒッグス粒子とは何か？

素粒子は重さを持ちません。

ものに重さを与えているのが

ヒッグス粒子です。

「重さ」とは「動きにくさ」。

田中教授は「水蒸気と水」のたとえで説明しました。

宇宙の始まりはヒッグス粒子は働いていません。すべての素粒子

は光速で動き回っていました。す

ぐヒッグス粒子の状態が変わり、

素粒子は動きにくくなって重さを

持つようになりました。気体の水蒸気も液体の水も同じ水。水蒸気の中では自由に動けますが、

水の中では水の抵抗で動きにくくなります。これがヒッグス粒子の働きです。

17種類の素粒子が説明できるのは宇宙の20%。残りの80%は未知のままです。

ものに重さをあたえているのはヒッグス粒子
位相を変えて、素粒子に「重さ = 動きにくさ」
をあたえています。たとえば、水じょう気と水。

